

年収150万円

で暮らす法

吉田 清彦

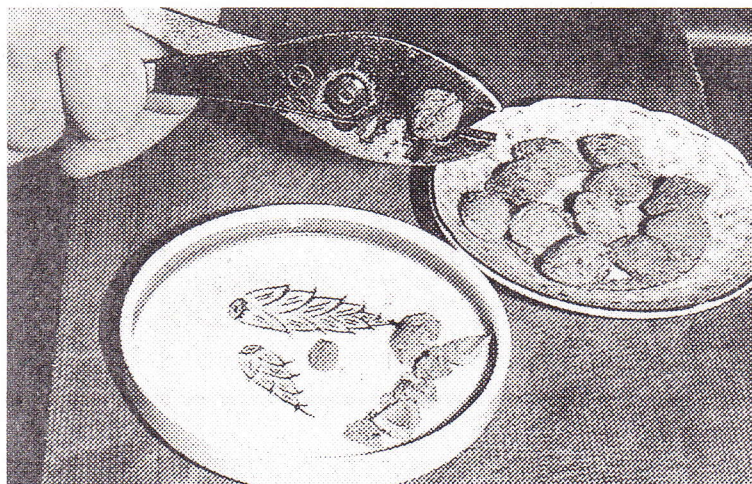
それはともかくとして、両の奥歯が痛み出してから抜け落ちるまでに相当の年月があるのだが、その間、結局は歯医者に行かずじまいだった。保険がないということも理由だが、歯医者というのが、もともとあまり好きではない(歯医者

マカ不思議な梅干しパワー

三年ほど前、右側の下の奥歯が抜け、今年の初めに左側の上の奥歯が抜けた。これで、残る歯は二十六・五本となった。なぜ歯数が

ついているかという、三十代の初めに、まだ健康保険がある時に、合わせて六本ばかり詰め物をしたり、金冠をかぶせたりしたのだから、そのうちの一本は詰め物が取れて、根本だけが残っているからである。

では、それほどまでの痛みを、歯医者



胡桃(くるみ)のように乾燥させた梅干しの種を工具で割っては中身の仁(手前の絵皿の真ん中)を食べる。元気のもとだ

虫歯も 歯医者に行かず

らずに、どうしていたかという、最初のうちは塩水でウガイをしたりなどして

いたのだが、これが、あまっていた。効かない。そんな折に人から勧められたのが戦前からの下痢止めの丸薬で、これが実に良く効く。寝る前に、ほんの少し患部に詰めるだけで、翌朝には痛みが嘘(うそ)のように無くなってしまっ

落した。前回紹介した『家庭でできる自然療法』―あなたと健康社(東京)―を読むと、梅干しは、胃腸障害や歯痛の他、便秘、高血圧、低血圧、心臓、肝臓、糖尿病など、あらゆる病気に有効であることがわかるが、なかでも、『天神さん』と呼ば

れる、梅干しの種の中の仁(にん)は、下痢止めに抜群の効果を発揮する。

を聞き及んで、使用を断念することにした。

それに代わって、現在愛用しているのが梅干しである。梅干しには強力な殺菌力があるが、有益な細菌を殺すことはなく、反対に胃腸内の有益な細菌の活動を活発にするという。実際に梅干しを使ってみて驚くのは、腫(は)れて痛んだ歯ぐきのところがごっそり取れて、そのあとに新しい細胞組織が生み出されていく。

このようにして、歯医者に通うことなく、そして激痛に悩まされることもなく、無事に二本の歯は抜け

(フリーライター)